

令和5年度高浜市多文化共生推進プラン策定委員会（第2回） 会議録		
日 時	令和6年2月13日（火） 18時～19時	
場 所	市役所会議棟3, 4	
出席者	委員 (敬称略)	神田 すみれ、新美 純子、宮田 克弥、畠 孝二郎、高木 良彦、 中島 淳、杉浦 彩希、新膳 マルティン フェルナンド、 ハーティ トウ チャン
	事務局	企画部長 木村 忠好 総合政策グループ リーダー 榊原 雅彦 同 主任 柘植 一馬 同 主事 中川 歩 4名出席
	傍聴者	2名
次 第	1 議事 1) 前回会議の意見等を踏まえた修正（資料1, 2） 2) 各主体の役割（資料2 P29～30） 3) 計画全体をとおして 2 その他	
資 料	【事前配布資料】 資料1 高浜市多文化共生推進プラン（案）新旧対照表 資料2 高浜市多文化共生推進プラン素案	

1 議事

1) 前回会議の意見等を踏まえた修正

■資料1, 2により事務局から説明

- ・P4で「2章」が抜けている。また、P19の表の中の「①多文化共生の意識啓発」がどこにあるか一見わかりづらいので色を付けるなどした方が良い。
 - ・P25の取組内容の最後「コミュニティ形成のサポートに多言語で…」というよりも「コミュニティ形成をサポートします」という表現の方が違和感がないのでは。
 - ・具体的な実施計画は、この冊子とは別で作成するのか。いつ何をどうやって実行していくかわかりづらいと日本人も外国人も行動できない。
- このプランでは方向性を示している。ご意見いただいた点については、総合計画のアクションプランで示しており、多文化共生のみで実施計画を示すことは考えていない。具体的に書くとそれしかできなくなってしまうため、あくまで方向性を示したが、わかってもらえるような書き方を検討したい。
- どことつながればいいかわからないと動けない。つながれる場所や、それぞれの取組みについてどこが主導で行っていくのかわかると良い。

2) 各主体の役割

■資料2 P29～30により事務局から説明

3) 計画全体をとおして

- ・P30では「町内会やまちづくり協議会の防災活動へ…」とあるが、地域コミュニティに属していない外国人はどこにどんな人が住んでいるかわからずアプローチができない。
- 日本人も外国人も、町内会に入っていない人はどこにだれが住んでいるかわからず、課題である。
- 外国籍市民の意見も聞きながら考えていくことが必要。
- 「防災訓練」ではなく、イベントのような気軽なものにすると良いのではと消防団では考えている。
- 参加してもらうには、チラシをポスティングするよりも直接会って誘うことが重要だと思う。
- ・現状何を行っているかわかりづらいので、表紙などの写真について、いつなにをしたときのもの

なのか解説があると良い。

- ・市民はこの計画をどこで見えるのか。

→まずはパブリックコメントを募集するので各施設で見ることができる。その後はホームページや、広報にQRコードを掲載して発信する。実物の冊子を施設などに置くことは考えていない。

- ・前半の高浜市の現状のデータを、市で行う会議などの参加者に渡すと良い。
- ・小学生の夏休みの宿題で、多文化共生をテーマにしたポスターと習字作品を募集したので、それを表紙などに使用しても良いのでは。
- ・1文を短くすると、日本語を理解できる外国人にもわかりやすくなり、今度はそれを読んだ外国人が自分の言葉で発信できると思う。
- ・子どもたちへの意識啓発として、夏休みのポスターや課題制作などで多文化共生をテーマにするのが良いと思う。子どもがやっているとそれを手伝う保護者も多文化共生について考えることになるので、親世代への啓発にもなる。